

なりやまあやぐ

(本調子)

1. サーなりやまや なりていぬなりやま
すみやまや すみていぬすみやま
イラユマーンサーヤヌ すみていぬすみやま

行き慣れた山 行きなれた海
遠浅の海よ

2. サーなりやま^{んみや}参^{しゅ}いてい なりぶりさま^{しゅ}ずな主
すみやま^{んみや}参^{しゅ}いてい すみぶりさま^{しゅ}ずな主

夫よ
行き慣れた山だからといって甘く見てはいけません
遠浅の海だからといって甘く見てはいけません

イラユマーンサーヤヌ すみぶりさま^{しゅ}ずな主

3. サー馬^{ぬま}ん乗^ぬらば 手綱^{たづな}ゆるすな主^{しゅ}
みやらびやーい くくる しゅ
美童家行き 心ゆるすな主

夫よ
馬に乗ったら手綱を緩めないように
乙女の家に行ったら心を緩めてはいけません

イラユマーンサーヤヌ 心ゆるすな主

4. サー馬^{ぬま}ぬ美^{かぎ}さや 白^{しる}さど美^{かぎ}さ
みやらびかぎ いる かぎ
美童美さや 色ど美さ

馬は白毛が美しい
乙女は肌や髪が美しい

イラユマーンサーヤヌ 色ど美さ

5. サーぶり押し波^{あま}や 笑い^{んか}ど押し^{しゅ}ず
ばんぶなりゃ 笑い^{あま}ど迎^{んか}い

波は笑顔で寄せてくる
私の恋人は喜んで私を迎えてくれる

イラユマーンサーヤヌ 笑い^{あま}ど迎^{んか}い

< 解説 >

万事深入りはならないという意味の教訓歌。

< 宮古 >

なりやまあやぐ (本調子) 歌: 合乙老四上中工五七

合 上 中 工 中 上 中 工 合 五 工 中 上 工 中 上 四

合 四 四 上 四 四 乙 合 合 四 合 中 上 上 中 工

さあ ああ なり やま あやあ なりていぬ なあり やあ ましゅ
 さあ ああ なり やま んみゃ あいいてい なりぶりい さます なあ しゅ
 さあ ああ ぬ まんぬ うらあば たづな ゆう ゆるす なあ しゅ
 さあ ああ ぬ まぬ かぎ いさあや しるさ どう かあぎ いい さ
 さあ ああ ぶり ゆし な あんや あまい どう ゆうし いい す

合 工 五 中 工 上 中 工

合 工 合 五 七 工 合 工 五 工 中 上 工 中 上 四 合 四 上

すうみ やま ああ や すみ いていぬ う すうみ や あ ま い
 すみやま んみゃあ いてい すみ いぶりさ まあす なあ しゅ
 みやらび やあ あいき くく る ゆる うす なあ しゅ
 みやらび かぎい さや いる どう かあぎ いい さ
 ばあんぶ なあ りゃ あま あい どう んんか あ あ い

四 乙 合 合 四 合 上 中 工 合 工 五 工 中 上 工 中 上

ら ゆま あんん さあ ああや ああ ぬ すみ いていぬ う すうみ や
 すみ いぶりさ まあす な
 くく る ゆる うす な
 いる どう かあぎ い
 あま あい どう んんか あ

四 合 四 工

あ ま
 あ しゅ
 あ しゅ
 い さい
 あ ま

1. サーなりやまや なりていぬなりやま すみやまや
すみていぬすみやま イラユマーン サーヤヌ すみていぬすみやま
2. サーなりやま参いてい なりぶりさますな主 すみやま参いてい
すみぶりさますな主 イラユマーン サーヤヌ すみぶりさますな主
3. サー馬ん乗らば 手綱ゆるゆるすな主 美童家行き
心ゆるすな主 イラユマーン サーヤヌ 心ゆるすな主
4. サー馬ぬ美さや 白さどう美さ 美童美さや
色どう美さ イラユマーン サーヤヌ 色どう美さ
5. サーぶり押し波や 笑いどう押しず ばんぶなりや
笑いどう迎い イラユマーン サーヤヌ 笑いどう迎い